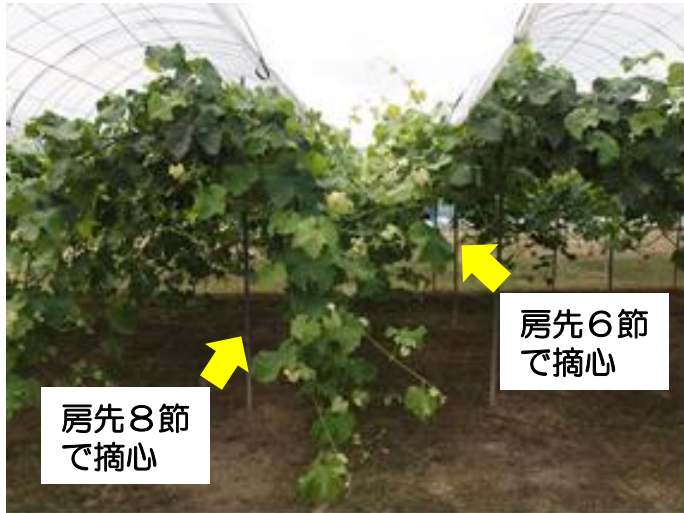
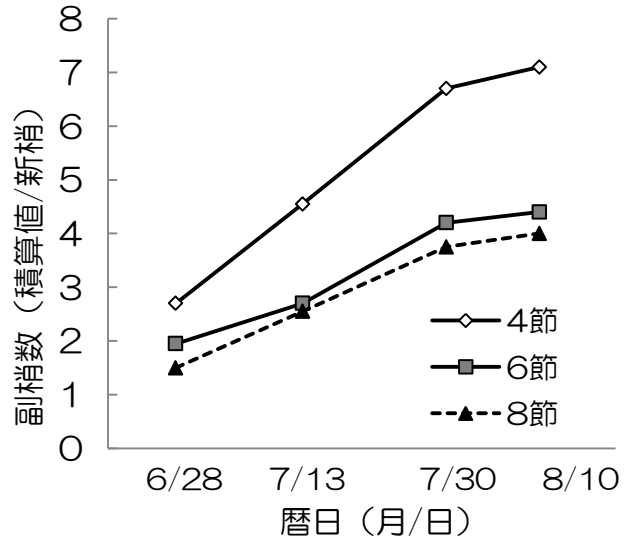


# 「シャインマスカット」のトンネル栽培で満開前に行う新梢の望ましい摘心方法



新梢を房先8節で摘心すると枝が垂れ下がり棚下が過繁茂になります



房先6節で摘心すると必要な葉面積が確保でき、再発生する副梢も少なくなります

## 開発のねらい

新梢先端を棚下に下げて管理する「シャインマスカット」のトンネル栽培において満開前に新梢を摘心する際、高品質な果実生産に必要な葉面積を確保し、かつ管理に手間がかかる無駄な副梢の再発生が抑制できる、摘心位置を明らかにしました。

## 新技術の概要

- 満開前に新梢を房先6節程度で摘心すると、必要な葉面積（葉面積指数2.5程度）が確保できるとともに、摘心後の副梢の再発生を抑制できます。
- 房先8節程度で摘心すると新梢が長くなり、再発生した副梢が地面に達して果房管理や薬剤散布等の作業性が悪くなりますが、6節程度で摘心すると、適度な長さになります。
- なお、副梢は、着房節までは2葉、房先は1葉で摘心します。

## 活用場面

県が次世代フルーツとして生産を振興している「シャインマスカット」について、高品質な果実が、市場へ安定供給されることから、ブランドの強化が図られて生産農家の収益性向上に役立ちます。